

# プロジェクトC 小学校における非認知能力育成の効果検証 エジプトでの現地調査（2023年12月25日～30日）報告書

相庭貴行（筑波大学大学院生） 平野 修（尚絅大学）

添田晴雄（大阪公立大学） 小泉琢磨（深谷市立藤沢小学校）

プロジェクトCでは、2023年12月25日、26日、28日にエジプト日本学校（EJS）3校を訪問し、教員8名、児童15名、Tokkatsu オフィサー（TO、日本の指導主事に近い役職）10名対して、Tokkatsu に対する認識に関するインタビューを実施した。本報告では、それぞれ異なる対象者に質問した4名のメンバーが、そのインタビューの概要とそこから得られた示唆について速報的に記述する。

## 1. エジプトの学校における Tokkatsu 観

### (1) 担当したインタビューの概要

12月25日から28日にかけて、計8名に対して Tokkatsu に関する半構造化インタビューを実施した。インタビュー対象者の内訳は、EJSの児童2名、EJSの教員2名、Tokkatsu オフィサー（TO）3名である（表1）。児童・教員・TOそれぞれに対するインタビューガイドをプロジェクト側で用意し、児童に対しては25～30分、教員・TOに対しては50～60分ほどインタビューを行った。インタビューは日本語のインタビューガイドをもとに、日本語-アラビア語の通訳を介して行った。通訳に質問の意図が伝わらない場面も多くあったため、通訳に対してもインタビューガイドの質問を言い換えて説明することも多く行っている。

表1：担当したインタビュー概要

カテゴリ	仮名	実施日	学校	性別	学年/年齢	その他基礎情報	インタビュー時間
児童	児童A	12/25	X校	F	6年		29分
	児童B	12/26	Y校	F	5年		24分
教員	教員C	12/25	X校	F	29yo	教員歴4年、EJS歴2年 アラビア語担当	47分
	教員D	12/26	Y校	F	33yo	教員歴6年、EJS歴6年 アラビア語担当	53分
Tokkatsu オフィサー	TO-E	12/27	-	F	43yo	教員歴16年、TO歴3年 TTCS未受講	54分
	TO-F	12/27	-	M	50yo	教員歴27年、TO歴7年 TTCS受講済	56分
	TO-G	12/28	-	M	40yo	教員歴18年、TO歴3年 TTCS未受講	58分



インタビュー風景（12/25、教員インタビュー）



インタビューを終えて

## (2) 児童インタビュー

児童に対するインタビューでは、学級会・日直・掃除の各活動に対する印象、およびそれぞれを実施したことによる児童個人や学級に対する変化などについて尋ねた（表2）。実施したことによる変化としては、学級会では相談する・ほめる・意見を言える・助け合う、日直では他者を助ける・自信がつく、掃除では他者を助ける、といった行動に結びついたことが述べられていた。特に児童Aと児童Bに共通して繰り返し述べられた点として、以下の3点が挙げられる。第一に、自由に意見が言えるようになったということである。児童Bは、学級会で意見を言うことに慣れ、学級で意見を言っても大丈夫と感じられるようになったと述べており、それぞれの自己が解放されたといえよう。第二に、他者に認められる、あるいは感謝されることで、自信がついたということである。児童Aは、学級会で一番楽しいのは、周囲からリスペクトされることであると述べている。自己の能力を発揮して他者に認められる、あるいは感謝されることで、自己有用感が高まっていると考えられる。第三に、学校内外で他者と協力するようになったということである。

表2：児童インタビュー結果概要

質問内容	児童A	児童B
学級会に対する印象と実施したことによる変化	<u>Respect</u> されるのがうれしい 自身： <u>意見が言える</u> ようになった 友人：否定ではなく <u>議論</u> するようになった、 <u>ほめる</u> こと増えた 学級：家族のように <u>助け合う</u> ようになった	最初は意見聞かない人もいて少し大変だった 自身： <u>自由に意見言える</u> ように学級：言っても大丈夫と感じられるようになり、 <u>相談</u> することも増えた。ほかの時間も相談増えた
日直に対する印象	リーダーになって <u>respect</u> されることがうれしい	先生を <u>サポート</u> するのが楽しい 家でも家族を手伝うようになった
掃除に対する印象	最初は消極的だったが、やると <u>みんな喜ぶ</u> のでやる気が出た 家でもやり方教えている	がんばっている、家に戻ってもほのうきの使い方などを教えている

ある。児童 A は、家に帰っても掃除などで家族を手伝うようになったと述べている。自己有用感を得たことで、さまざまな場で自己の能力を他者のために発揮していることが考えられる。

インタビューからは、以上のような成果を読み取ることができた。一方で、インタビューとして選ばれた児童は Tokkatsu に対して積極的な児童が選ばれていると考えられるため、解釈には注意が必要である。

### (3) 教員インタビュー

教員に対しては、主に①Tokkatsu の目的やキーワード、②Tokkatsu を実施してエジプトの学校に合った/合わなかった点や Tokkatsu の難しい点に対する対応、③Tokkatsu の児童や学級に対する成果、について尋ねた (表 3)。まず、Tokkatsu の目的やキーワードについては、協力・参加・責任・意見を言う・幸せになる・議論する・自信、などが挙げられた。また、Tokkatsu の成果としても、協力・責任・意見を言う・意見を聞く・自信を持つ・相互理解、などが挙がり、

表 3：教員インタビュー結果概要

質問内容	教員 C	教員 D
Tokkatsu の目的 やキーワード	<u>協力</u> 、 <u>参加</u> 、 <u>責任</u> 、 <u>意見が言える</u> 、 <u>幸せになる力</u> ...etc. 子どもの性格のため 子どもの人間関係も大事	<u>チームワーク</u> 、 <u>振る舞い</u> 、 <u>自信</u> ...etc. 元々元気な子が多いので、うまく <u>意見を言える</u> ようになる、 <u>相談</u> できるように
Tokkatsu の合った/合わなかった 点	容易...朝の会。一日の目標を立てるなど容易だった 困難...朝自習 (静かにするのが大変)、掃除 (家で経験ない)	学級会は日本のやり方を真似して容易にできた、ただ 4-6 年は少し難しい 掃除も家庭に感謝される ただ学級会は途中で口をはさみたくなり我慢するのが大変
多数決の問題や同調 圧力への対応	異なる意見があれば友人に相談するようにする 意見が割れたら説得する	意見が割れたら相談して交渉する サジェスチョンボックスに意見を入れて取り上げることもある
Tokkatsu の成果	クラスメートのことをよく理解するように (朝の 1 分トーク等で) <u>責任を全うすること</u> 、 <u>協力</u> することが増えた <u>自信</u> を持つ子も増えた	<u>責任を持って行動</u> する、 <u>自信</u> をもつ、命令ではなくやさしく話すようになり、 <u>相手の話をよく聞く</u> ようになった 先生やほかの児童を <u>手伝う</u> ように何でも反対ではなく相談することが増え、グループで動くことも増えた

目的と概ね同様であった。教員 C・D とも繰り返し述べた点として、以下の 3 点が挙げられる。第一に、児童が相互理解し協力したということである。教員 C は、朝の会での 1 分間のフリートークなどを通して児童が他の児童のことをよく理解するようになったことや、掃除で早く終わったら他の児童を手伝うようになったと述べている。第二に、責任をもって行動するようになったということである。教員 C は、他の児童のことを考え、児童が時間を守るようになったと述べている。第三に、児童が自信を持つようになったということである。これについて具体例は述べられていないが、児童インタビューにあったようなことであると考えられる。以上のように、児童へのインタビューから得られたような変化が、教員の目からも見られるようになったのである。

#### (4) TO (Tokkatsu オフィサー) インタビュー

TO (Tokkatsu オフィサー) に対しては、エジプトの一般校で Tokkatsu が普及しない要因などについて質問した (表 4)。ここでは、エジプトの子どもや教育における課題と Tokkatsu の関係について焦点を当てる。

TO の 3 名とも、Tokkatsu の実施はエジプトにおける社会や教育の課題と関係していると回答している。TO-E は Tokkatsu がエジプトの子どもにとって最も意味があると述べる。エジプトの子どもはさまざまな能力はあるが正しく生かしていない状況であり、Tokkatsu は一人ひとりに指導できることで、児童が役割を得るなどして強くなれるのだと述べている。また、ムスリムであるこの TO-E は Tokkatsu が自分の力を発見して実践するという点でコーランの教えにとっても通ずるものだとして述べていたため、この点とつながりを見出すこともできるだろう。このように自己の能力を生かすことが、児童が述べたような自己有用感に繋がっていることも考えられる。また、TO-F および TO-G は、いずれもエジプトの子ども (や大人) が他者の意見を聞くことや協力することを苦手としている、あるいはそのようなことを実践する機会がないことと述べている。TO-G は、エジプトでも日本同様、助け合うことや、人にされてうれしいことを人にするという、他者を尊敬することなどの価値は重視されているが、実践する時がないのだという。そのようなエジプト的な価値について、TO-F および G とも児童が Tokkatsu での実践を通して

表 4：TO インタビュー結果概要

質問項目	TO-E	TO-F	TO-G
エジプトの子どもにとっての Tokkatsu の意味	子どもたちは元々能力があったが <u>正しく生かせていなかった</u> 。 一人ひとりに合わせて指導できることで、 <u>性格を伸ばす</u> ことに	エジプトの人は自分が自分が、となりやすい Tokkatsu は <u>相手のことを聞く、協力する</u> 他の人の話を聞き、協力できるようになってきている	エジプト社会の問題として、 <u>他の人の意見を聞く機会</u> がない。他の人の意見が自分のためになるかということをして Tokkatsu で学んでいる 生活能力の向上に

Tokkatsu を行う際の 学校ごとの工夫	学年間の交流、保護 者との交流等	最近朝自習の内容 や朝の会の話題など にアレンジ加えるよ うに	従来の Tokkatsu と共 通する要素をもつ活 動を発展させた例も
一般校に Tokkatsu が 普及しない要因	負担が増えること 外来のものでありイ メージもわからないた め	研修の問題が一番 研修は行われていて も部分部分だけで全 体の理念が理解され ていないことがある 研修自体も少ない	文化が異なるのでわ からない点が多い 変更することに抵抗 がある
エジプトの教員に Tokkatsu を行う資質 はあるか	まだわからないが研 修が十分ではない	準備あればできる が、忙しいのが課題 見せるための show に なることもある	EJS の教員は持って いるが、一般校の教 員は研修が少ないた め不十分
学校間・教員間の違 いは課題になってい るか	そんなに問題ではな い 合意形成の方法のち がいが等	教員用ガイドがある ので大きく異なるこ とはないが、それぞ れ教員がアレンジし ている	教員用ガイドでステ ップが説明されてい るので大差ないし教 員間の差も問題ない
TO としての関わり	先生の気持ちを理解 しつつ Tokkatsu を学 校に伝える	まず自分の普段の生 活から変えるように している。話を聞く など	公立校での研修、EJS での教員への指導や 相談など
TO に必要な能力	柔軟に相手を理解す る力、良い点を見つ ける力、教員のパー トナー（伴走者）に なること	ロールモデルとし て、相手のことをよ く聞き理解できるよ う話す 実態を知ること	コミュニケーション して情報を伝える Tokkatsu の philosophy を理解し実行するこ と
TO の難しさ	学級数が増えている ため少ししか指導で きないことも	先生は自分ですべて やろうとしてしまう 先生どうしの競争も あり、そうすると子 どもが損する	毎年 Tokkatsu の教員 が変わるため、ゼロ から始めることにな る 今も変わらない
自身のキャリアにお ける TO の意味	自身の話し合う力、 相手の話を聞く力に 生きてくる	TO を通して自身の考 えを伝えていきたい	少数派について考え る、相談することが 増えるなどの変化あ った

身につけていると述べていた。以上のように、エジプトの子どもの状況を踏まえ、Tokkatsu が実践を通して自信や協力といった価値を身につけることに繋がっていると理解できるだろう。

### (5) 考察：エジプトにおける教育の課題と現地の文脈における Tokkatsu の意義

以上に示したインタビューの結果等をもとに、エジプトの学校において Tokkatsu の実施がもつ意義について考察したい。

近年のエジプトは、学力競争が激化しつつあり、学校も教え込み中心となっていることがいわれている。そのため、教員 D が Tokkatsu によって命令から話し合いになったと述べるように、従来は教員-児童が命令による一方的な関係が中心であった。Tokkatsu への期待は、そのような閉塞感の打開として期待されていたのは確かだろう。日本式教育導入当初のエジプトが求めていたのは「規律や協調性などの人格軽視などを重視する日本式教育」であり、教科中心から道徳性を含めた全人的教育への移行であるといえる。しかしエジプトの子どもの生活に着目すると、エジプトにおいて生まれていた問題はこれだけではないと考えられる。主体的に発言したり行動したりする機会がないことで、TO-E が述べていたように、子どもは能力を「正しく生かす」機会がなかったのである。これによって自己の心理的な要求が満たされず、TO-F が述べるように「自分が自分」（我先に）、という態度に陥っていたことが考えられる。

Tokkatsu の実施によって、成果として協力や議論などの点とともに多く語られたのが、児童が意見が言えるようになった、あるいは自信がついたという点である。Tokkatsu は、3.2.で述べたように、自己の発言や行動が他者に認められる、あるいは感謝されることで、児童が自信や自己有用感を得る場になっている。また、そのように心理的なニーズを満たされる経験を得ることで、児童が家でも手伝いをするようになったと述べるように、他者のために協力したり、他者の意見を聞いて相談すること、責任をもって行動することなどにつながったといえるだろう。

エジプトでは、協調性をはじめとする道徳性の育成のために Tokkatsu が導入された。しかし Tokkatsu では、ただ協力することに慣れることによってではなく、児童が主体性を発揮して発言あるいは行動することを通して、従来は十分に満たされていなかった自信や自己有用感といった心理的な要求を充足する経験を得ることで、協調性等の育成につながったのである。つまり Tokkatsu は、エジプトの子どもにとって従来十分に満たされていなかった心理的な要求の充足に寄与するものとなったことで、エジプトにおいても有効に機能していたのだといえよう。

(第1節担当 相庭貴行)

## 2. エジプトにおける Tokkatsu の現状と展望

### (1) 児童インタビュー

一つ一つの Tokkatsu に関する質問に、自分の経験などを通し、自分のこととして長いセンテンスで身振り手振りを加えて語ってくれる児童の姿に、エジプトでの Tokkatsu に対する理解が広まっていることを実感するとともに、エジプトの児童の自分を語る力に圧倒された。同時に、日本においては、Tokkatsu の活動が持っている意義であるとか、活動が育てる力といったことをきちんと意識した実践がなされているのか、また、教員はそのことを子供たちに理解をさせているの

か、といった問題を突きつけられた。インタビューの内容と考察は、以下の通りである。

- ・形から入っていた Tokkatsu が、Tokkatsu の理念をしっかりと理解した上での実践を行なっていることに驚きを感じた。
- ・日直や掃除といった日本の子どもたちが面倒くさがるような仕事についても、自分に任された責任を果たすことの喜びを感じている。実践している姿が日本では見られない姿である。最近、日直や掃除などの活動を軽視しがちな日本に対して、人のために仕事をすることの充実感や社会の一員として社会のために自分が行動することの満足感や自己有用感や効力感を大事にしていることに日本との違いを感じる。また、掃除をすることの大切さ、喜びを感じた子どもは、地域のゴミに関しても自分で拾おうようにしている、家庭においても進んで掃除をするようになったことなどを語ってくれた。
- ・学級会をすることで、みんなで決めたことをする楽しさを知り、友達同志の仲もよくなり学級での問題が減ったという話も子どもたちの中から聞かれる。様々な問題が起こった時に、まずはみんなで話し解決できるようになったことで友達との見方も変わってきているとも話してくれた。
- ・また、先生に対しても、これまでは怖いというイメージが強かったが、今は、私たちがやろうとすることを一緒に考え、アドバイスを与えてくれる、お兄さん、お姉さんのような存在に変わったとも話してくれた。
- ・糖尿病の児童は、Tokkatsu を始める前までは病気のことからいじめられたりしていたが、Tokkatsu が始まり、みんなで話し合い、掃除や日直に取り組む中で自分のことを理解し、認めてくれて、今では自分を守ってくれる存在へと変わった。このように話してくれ、Tokkatsu を通して協働で色々なことを経験することが、よりよい人間関係の構築にも繋がることを証明してくれた。

## (2) Tokkatus オフィサー (TO) インタビュー

### ①Tokkatsu に対する認識

TO 自身が Tokkatsu のことを大好きであり、Tokkatsu の理念、考え方に深く共感していることを感じる。Tokkatsu の魅力については、これまでエジプトでは教えられてこなかった問題解決能力（自分で自分の課題を捉え、解決策を考え実践していく力）やリーダー性（みんなの意見を聞いてまとめ、方向性を決めていく力）にあると言っており、そのことが自分の日常生活にも生かせることにあると感じている。

### ②一般校への広がりについての課題

- ・教員の給与の問題

エジプトにおいては、一般校の教員の給与は安く、それ自体で生活していくことはできない。そこで、教員は勤務時間が終了すると同時に家に帰り、家庭教師や塾の講師として働き、そこから得た収入で生計を立てている。すなわち、勤務時間終了以降まで学校に残って仕事をするよう

なことではない、という現実がある。そのような中で、プラス時間を必要とする Tokkatsu を導入するには大きなハードルがあるように感じた。現在 EJS では、教員の給与を高く設定することでスムーズに Tokkatsu の導入が行われている。教員の待遇改善が Tokkatsu 導入の一つのキーとなっている。

- ・ 1 教室あたりの児童数の数

人口の急激な増加とともに、学校不足が深刻化し、1 クラスあたりの児童数が 100 人を超える。そのような教室で Tokkatsu のアクティビティを行うのには無理がある。

- ・ 保護者への理解

親の代の教育に対する考え方には、Tokkatsu 的な考え方はないので、その理念や考え方を理解することが難しい。そのような中で、進めていくのは難しい。

- ・ 校長の理解

校長自身が Tokkatsu に対する理解がなく、やりたい先生はすればいいというスタンス。専門性は必要とせず、誰でもできるという考え方を持っている。

これらの課題は、日本の学校にも通じるところがある。働き方改革の下で勤務時間の超過の原因の一つに特別活動があげられたり、Tokkatsu への理解を得にくい校長の下では、Tokkatsu が学校全体に広まらなかったりする現状は、まさしくエジプトと同じである。その中で、エジプトでは教育学部系の大学において Tokkatsu のディプロマ開発が行われており、これにより Tokkatsu の専門性をもった教員が輩出されることによる Tokkatsu の広まりを期待している。

### (3) Tokkatsu 研修認証制度 (TTCS) の意義と課題

これまでの TTCS (Tokkatsu Training and Certification System) は、日本側から Tokkatsu の専門家がエジプトに出かけ、TO が行う授業者へのフィードバックを見学、質疑を行うことで評価基準に沿って評価を行っていた。しかしながら、毎年、日本から Tokkatsu の専門家がエジプトに出向いて行って評価することには限界があり、持続可能な取組とはなり得ない。そこで、持続可能なシステムにしていくためにはエジプト人自身が TO の認証をできるシステムを構築することが重要となる。

TTCS が機能するためには、評価者である大学教員が Tokkatsu に関する専門的な知識と理論、実践を身につけておく必要がある。しかしながら、現在、エジプトの大学において Tokkatsu を専門とする教員は存在せず、授業においても実施されていない。そのような状況下において、TTCS をエジプトの大学教員に全て任せることには限界もある。今回の研修では、國學院大学の杉田氏が TTCS の大学教員メンバーに、TO が授業者に指導を行う場面での評価の視点や基準についてレクチャーを行っていたが、Tokkatsu をあまり理解していないメンバーであることもあり、発言の意図や内容に対する評価というよりも、形式的な評価手順の理解に終わっていないか懸念が残った。今後、エジプトの大学において Tokkatsu のディプロマができ、大学教員の中で Tokkatsu の理論や実践を行える人材が出てくるまで、どのようなメンバーで認証していくのかが、今後の大きな課題と考える。

(第 2 節担当 平野 修)

### 3. 日本との共通点と相違点

#### (1) 児童インタビュー

##### ①12月26日(火) 6年生男子(2年生から4年間 Tokkatsu を経験)

#### 【結果】

- ・学級会でよかったこと：意見を言うことができる。決めたことをできる。反対意見であっても聞くことができる。
- ・話し合って昼ご飯をみんなで作って外で食べたのが楽しかった。食べた後はちゃんと掃除をした。
- ・運動会の内容もみんなで話し合って行った。特別ニーズの子も参加できる工夫を話し合った。
- ・(手を挙げているのに) 司会者が当ててくれない時、いやだった。その時は先生にあててもらっていないと小さな声で言ったら解決した。
- ・(予定が変更され) 急に司会をすることになったとき、不安だった。
- ・(前は意見を言うのが苦手だったが) 昼ご飯や運動会についての学級会では、意見をたくさん言えた。
- ・3年生のときは、教室を誕生会で飾るといったことを話していたが、6年生だと運動会など大きなことについて話すようになった。
- ・学級会で、みんなが仲よくなった。
- ・休み時間は遊ぶばかりだったが、今は、休み時間に話し合うことが増えた。
- ・朝の会が好き。情報を伝達するために、情報を収集することをちゃんとできる。伝えることを練習して、覚えてメモを見ないで伝える。図書室の本から情報を収集するなど1週間準備することもある。
- ・みんなが静かなときは、日直は不要。たとえば、音楽室などに移動する場合は日直が必要。
- ・そうじ自体は問題ないが、グループがずっと固定されているのは問題。去年からずっとほうきのグループ。ほかのそうじをしたい。先生に何回も話しをしたが、ちゃんとできるまで同じことをしなさいと言われた。
- ・家では、毎日そうじをしている。お父さん、お母さんがびっくりしている。お姉さんの子ども(2歳)に掃除を教えることもしている。
- ・お父さんは忙しいが、家にいるときは話合いをするようになった。
- ・先生がもっと褒めるようにすると Tokkatsu はもっとよくなる。
- ・学校は1日のうち、もっとも長い時間を過ごすところだ。

#### 【考察】

自分たちで話し合ったことを実践して楽しむという過程を経験したというのが、子どもたちにとって意味があった。みんながきちんとしていけば日直は不要という発言は、特別活動の理念をよく理解している。一方、日直の主なしごとが、(先生に代わって) 注意することと捉えられているらしいところが問題かもしれない。そうじの役割分担については、教員主導のようである。教員主導であっても、児童の意見を聞いて分担を変えたり、児童にどう分担するかを話し合わせたりするといった余地があるかもしれない。

## ②12月28日(木) 4年生男子(学級会は1年生から4年目)

- ・学級会は好き。意見を言うことができるから。
- ・学級会は、提案できるから楽しいし、提案によって知らなかったことができるようになるのがいい。
- ・学級会の結果、使わないおもちゃを、おもちゃのお金で売買することをした。リモートコントロールの車のおもちゃ(車の部分のみ)を売り、卓球のボールを買った。
- ・学級会で困った事:仲よくない子どもが意見を言った場合、それを聞き入れない子がいる。
- ・学級会の司会者として困ったこと:学校に映画館をつくる、遠いところに遠足に行くなど、実現できない提案をする子がいる。司会者として、どうして実施できないかを説明した。映画館の場合、大きな機材が必要、騒音が邪魔になるなど、説明した。関係ない提案が出た場合は、あなたの提案、ありがとうございますと言ったあと、それは議題に関係ないと説明した。
- ・学級会をする前は、個人でやった方がいいという考え方だったが、今はチームワークでする方がいいと思うようになった。また、使わないものをどうすればよいか知らなかったが、学級会をして、貧乏な人に寄付すればいいということがわかった。
- ・関係がなかった同級生がいたが、学級会で司会者になったとき、その同級生と話す機会があり、その後、仲よくなった。
- ・授業に関係ない質問が出た場合、先生は、以前なら、「関係ない」、「黙りなさい」と言っていたが、学級会の話合いをしているので、今は、(教科の授業でも)先生が、関係ない質問でも、その内容を聞いた後、言ってくれてありがとうと言ってから、今はその話題ではないという説明をして次に進むようになった。
- ・日直が好き。責任をまかされて命令することができるのがよい。帰りの会などで、話があれば話して下さい、と命令するのが好き。
- ・活躍することが好き。司会者に当てられなかったら悲しいと思ったこともあったが、今は、大丈夫。日直は手洗いのとき、先生になって、この4人外に行って手洗い、次の4人...と指示できるのが好き。
- ・掃除が好き。きれいになる。ペンを床に落としても、床がきれいだとペンを拾ってすぐ使える。
- ・ゲームのとき、勝つばかりに意味があるというのではなく、スポーツ魂をもつようにするのがよい。
- ・学校は学ぶ場所である。大人になるために学ぶ場である。

### 【考察】

エジプトでは、教員の権威が非常に高く、教員がひとりひとりの児童に細かい指示を出していくことができるのがよい先生という文化があったようである。児童はその権威を持った先生の役割の一部を担うこと(先生に代わって児童に指示を出すこと)に魅力を感じている可能性がある。日本の70年代の班活動の欠点を体現しているのではないか。一方、学級会の経験により、教員の側で、教科指導の際に関係ない発言をする児童の発言に対する扱い方に変化が出ている。

## (2) 教員インタビュー

- ・12月25日(月) 教員31歳女性(教員歴10年、教科はアラビア語、現在は幼稚園担当で6年目。)

### 【結果】

- ・Tokkatsuで教室がきれいになった。いつもきれい。かばんがきちんと置かれるようになった。きちんと置いていない場合、他の児童が注意する。
- ・授業中、先生の話静静地に聞くようになった。姿勢もよくなった。姿勢を崩している児童には、まわりの児童が注意する。
- ・自分の意見と違う意見も聞くように指導し、児童もそうすることができるようになった。その結果、児童も自信をもつようになった。
- ・幼稚園児でみんなの前で意見を言うのが恥ずかしかった子を、励まして、励まして、励ました結果、意見が言えるようになった。
- ・話し合いのときの教員の役割は、子どもの話を聞くこと、待つこと。特定の児童の発言が続く場合は「みんなの意見を聞きましょう」といった助言はするが、それもできるだけしなくてすむようにしている。その結果、児童が何を考えているかがわかるようになった。
- ・一般の授業(アラビア語)でも、以前は教員が一方的に説明する授業であったが、児童が考えた意見を言う場面が増えた。児童が元気になった。
- ・クルアーンやハディースに、掃除することや、人の意見を聞くこと、話し合うことの大切さが書かれている。

### 【考察】

Tokkatsuが大切にしている価値観は(日本からの)外来のものではなく、エジプトの文化に本来的に内在していたものであったこと、しかしながら、学校の中でなかなか実践できていなかったものであることが確認できた。本来尊重されるべき文化や価値観を復権させる契機として、Tokkatsuが目目されたのではないか。清浄さ(タハーラ)はクルアーンの中で協調されている概念である。「シューラー」(協議、話し合い)、「マシュラワ」(協議する)、「イスティシャーラ」(他人の意見を求める)などもクルアーンの中に出現する言葉である。

### (3) TOインタビュー

- ・12月26日(火) Tokkatus オフィサー50歳男性(教員として25年、うち、Tokkatsu オフィサーとして5年。今は市長をしている。TTCS 受講経験2回、小学校社会科)

### 【結果】

- ・Tokkatsuを普及させる際に、学生の数が多い、施設が足りないのが問題。予算がない。
- ・アラビア語の先生は、時間割の中でアラビア語の授業が多いので、子どもと接する時間が長いので、Tokkatsuを指導しやすい。音楽などは授業数が少ないのでTokkatsuを指導しない先生がいる。しかし、教員の人数が少ないので、音楽も含めていろいろな教科の先生がチームでTokkatsuに取り組むのがよい。
- ・研修を受けていない先生がいて、その先生はTokkatsuを指導できない。
- ・子どものことを知らない先生は、Tokkatsuを指導するのは難しい。
- ・昔の小学校ではひとりの教員が全教科を教えていたが、今は教科担任制となっている。

- ・何が Tokkatsu かがわかっていない先生が多いのが、Tokkatsu が普及しない原因。
- ・Tokkatsu オフィサーとして、学校にいる先生全員に研修をする必要がある。一般校の先生には、EJS を見学してイメージをもってもらいたい。Tokkatsu は負担増ではなく、Tokkatsu をすることによって教えやすくなることを教えたい。研修では、Tokkatsu の必要性を理解していただき、Tokkatsu の手順を説明する。
- ・研修で大切なのは、フレキシビリティ、意見を聞くこと、尊敬すること。校長先生が 1 年間、学級会を見せてくれなかったことがあった。その後、両者が学校のため、児童のためのことを思っていることが確認されたので、どの授業を見てもいいようになった。
- ・教員に指導したとき、自分は本のとおりに行っているという反応があった。もっとよくするための助言だと説得した。
- ・普通の教科のモニタリングは悪いところを見つける、Tokkatsu のモニタリングは良いところを見つける。
- ・Tokkatsu の土台となるディシプリンについての質問には、Tokkatsu の哲学が必要だという回答となった。
- ・TTCS のオンラインのラーニング・キューブを使った研修は、経験したことはない。
- ・実務実習で、実践は変わる。Tokkatsu オフィサーとして教員を褒めないといけない。
- ・研修実践の評価がもっとも有効。選択式試験はよくない。
- ・授業見学は 1 校ではなく、2 校を見学し比較するとよい。別の学校に行って実習をするのがよい。
- ・Tokkatsu オフィサーとしての実務実習では、聞かれる側の気持ちがわかった。

#### 【考察】

アラビア語担当の先生が Tokkatsu を主導しているという話は興味深い。日本では小学校の教科担任制の導入・普及が目指されており、今後、担任以外が学級活動を行う可能性もある。

(第 3 節担当 添田晴雄)

#### 4. 児童インタビューからみた Tokkatsu の可能性

児童へのインタビューの中から、印象的な言葉を紹介したい。

「私たちは” Tokkatsu”で協力と責任を学んでいる。」

「責任を取れるということは私たちが大人になっていく上でとても大切なことだ。」

「みんなが参加できるように考えることで、もっとよいものになっていくと考えている。」

ここからは、大人以上に子供が Tokkatsu の意義を理解していることがわかる。さらに「EJS は特別であり、他の学校にも”Tokkatsu”が広まってほしい」という児童に対して、「そうすると EJS は特別ではなくなるよ」という反応があった際、それに対する彼女の答えは「そしたら私たちはもっといいアイデアで学校をよりよくしていく。私たちが特別であることに変わりはないと思う。お互いに高め合っていけたらいい。」というものであった。このように、自分たちの社会に誇りをもってよりよくしていこうとする子どもが育つことで、平和で民主的な社会が実現していくのではないだろうか。

(第 4 節担当 小泉琢磨)